

電子カルテならではの長期間の記録保持への貢献と共に IT化による業務の効率化、業務負担軽減等の実現を図る

社会福祉法人三篠会
重症児者・福祉医療施設 鈴が峰 事務長
岡野 崇 氏に聞く



岡野 崇 (おかの・たかし)氏
広島工業大学卒。2004年三篠会入社、介護職員、相談員を経て現職。

社会福祉法人三篠会
重症児者・福祉医療施設 鈴が峰 事務長
岡野 崇 氏に聞く

社会福祉法人三篠会は、2020年から同法人の持つ重症児者・福祉医療施設にパシフィックメディカル製の電子カルテシステム「MALL」を次々に導入し、稼働を開始した。「ソレイユ川崎」に次いで、2番目の施設として導入されたのが広島市内唯一の重症児者・福祉医療施設「鈴が峰」である。同施設の事務長である岡野 崇氏に、まず、「鈴が峰」の概要について話してもらった。

「2000年に開設した『鈴が峰』は、長期入所定員100名、ショートステイなど短期入所の定員10名の規模で運営しています。このほか、通所支援として放課後等デイサービス、生活介護、児童発達のサービスを20名の定員で実施してきましたが、現在はコロナ禍ということで、定員を15名に制限しています。なお、『鈴が峰』には、高齢者向けの特

別養護老人ホームやグループホーム、ケアハウスを併設しており、複合的な施設として運営しています」

現在、スタッフ数は高齢者施設の担当者100名を含め約300名が勤務。そのうち、常勤は3名、非常勤医4名で、この他に当直勤務の医師がいる。看護師は常勤・非常勤を含め、約55名が勤務している。また、「鈴が峰」は地域の障害福祉において中核となる役割を担っている。広島市から委託を受けて重症児者の地域生活支援センターを運営しているほか、相談支援事業所を設けて在宅の障がい児者で日常生活に困っている方の相談を受け、福祉サービスのコーディネーターをしていると岡野氏は話す。

重症心身障害児者の家族の方はなかなか相談できる場所がないので、当施設ではそのような方々の相談に乗りながら、訪問看護や施設でのショートステイ、通所支援やヘルパーの紹介などもさせてもらっています」

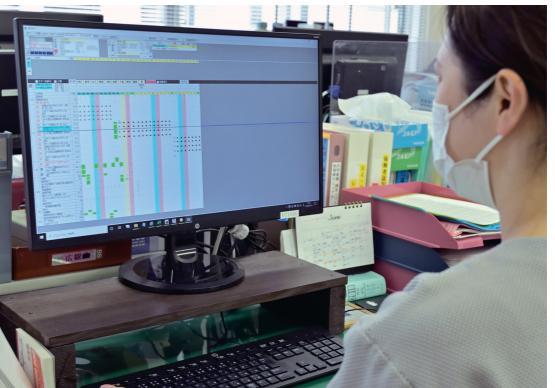
〔電子カルテシステムの運用 ベッドサイドでの入力体制を構築 適切な運用で業務負担の軽減を図る〕

「鈴が峰」が電子カルテシステム「MALL」を導入したのは、2020年8月。同システムの有用性について、岡野氏はつぎのように話す。

「電子カルテシステムに入力した内容が

適切な対応をとることができます」「MALL」は稼働以来、安定稼働を続けていると岡野氏は話す。
「以前は月に一度、パシフィックメディカルの担当者とシステムに関するミーティングを行っていましたが、現在は特に問題もなく稼働しているので、何かあれば随时対応してもらえるようになっています。要望を挙げるのならば、重症心身障害児者のケアでは、『療育』が重要となりますので、『MALL』には今後、この療育に関する機能をぜひ充実させていくつもりですね」

今後の「鈴が峰」の運営について、岡野氏はつぎのように話す。
「コロナ禍のため、面会や通所事業等を制限せざるを得ませんでしたが、ようやくそれも落ち着いてきました。今後は、施設の活動を以前の状態に戻していくなら、当施設の存在を再度アピールする取り組みを始めたいと考えています」



「鈴が峰」の電子カルテシステム端末。端末数はノートPC、デスクトップ、タブレット端末等で60台以上。診療業務や医事業務等の効率化に貢献している。

セコンに反映されるため、事務スタッフの業務負担が軽減されたのは大きなメリットにあげられますね。また、電子カルテシステムは指示や処置に関する入力を適切に行うことが重要で、それが診療記録の透明性を高めます。当施設では、タブレット端末やノートPC端末を活用してベッドサイドでの入力ができるので、適切なタイミングでの入力が可能になります。この点において、電子カルテシステムの使用は大きな意味を持ちます。なお、短期的な視点からのメリットとしては、『MALL』は検温記録等が時系列で表示される点は優れていますね。入所者の状態変化を隨時捉えることができ、

重症心身障害児者の診療記録は、前述のように長い年月入所されていることから、長いスパンでの健康管理が重要となります。この点において、電子カルテシステムの透明性を高めます。当施設では、タブレット端末やノートPC端末を活用してベッドサイドでの入力ができるので、適切なタイミングでの入力が可能になります。この点において、電子カルテシステムの使用は大きな意味を持ちます。なお、短期的な視点からのメリットとしては、『MALL』は検温記録等が時系列で表示される点は優れていますね。入所者の状態変化を随时捉えることができ、

重症心身障害児者の診療記録は、前述のように長い年月入所されていることから、長いスパンでの健康管理が重要となります。この点において、電子カルテシステムの使用は大きな意味を持ちます。なお、短期的な視点からのメリットとしては、『MALL』は検温記録等が時系列で表示される点は優れていますね。入所者の状態変化を随时捉えることができ、

ソレイユ川崎

三篠会
神奈川県

社会福祉法人三篠会
重症児者・福祉医療施設 ソレイユ川崎
施設長

江川文誠 氏に聞く

——ソレイユ川崎に入職した経緯からお聞かせください。

私は2005年に「ソレイユ川崎」がオープンする際に入職いたしました。

日本初となる重症心身障害児施設は、1961年に東京都多摩市に島田療育園（現・島田医療センター）が開設されて以降、このような施設は徐々に増加しました。私はそのように重症心身障害児施設が増加する中で川崎市にて障がい児医療に従事しておりました。川崎市には重症心身障害児施設がなかったため、担当したお子さんを東京都など近隣の施設にお願いすることとなり、心苦しい思いをしておりました。待望の重症心身障害児施設が川崎にオープンすると知り是非お手伝いしたいと考え、今に至ります。

——「ソレイユ川崎」の概要についてお聞かせください。

現在、「ソレイユ川崎」には、満床となる100名の重症心身障害児（者）の方が入所しています。入所者の平均年齢は40歳を超えており、高血圧やがんなど成人が罹患する疾病を患有する入所者も多く、常勤の5名の小児科医と10数名の非常勤医が協力しながら、こうした患者の対応

をしております。

また、私の出身である聖マリアンナ医科大学と連携し、重症心身障害児（者）でも一般人と同様の医療を受けられる体制も築いています。

——電子カルテシステム導入の背景についてお聞かせください。

従来、重症心身障害児者は、在宅か、病院に社会的入院をするケースが多数を占めいました。しかし、近年は国の方針転換により、これまで病院が担ってきた、特に重症な心身障害児（者）を施設に入所させるケースが増えました。それ

をしております。

また、私の出身である聖マリアンナ医科大学と連携し、重症心身障害児（者）でも一般人と同様の医療を受けられる体制も築いています。

——電子カルテシステム導入の背景についてお聞かせください。

従来、重症心身障害児者は、在宅か、病院に社会的入院をするケースが多数を占めました。しかし、近年は国の方針転換により、これまで病院が担ってきた、特に重症な心身障害児（者）を施設に入所させるケースが増えました。それ

をしております。

また、私の出身である聖マリアンナ医科大学と連携し、重症心身障害児（者）でも一般人と同様の医療を受けられる体制も築いています。

——電子カルテシステム導入の背景についてお聞かせください。

異動時、多職種勤務の中での紙カルテ運用に大きく驚く 福祉機能が充実した電子カルテシステム導入を高く評価

社会福祉法人三篠会
重症児者・福祉医療施設 ソレイユ川崎
キャバパス長

武田義博氏に聞く



武田義博 (たけだ・よしひろ) 氏
1991年龍谷大学文学部卒。1991年社会
福祉法人三篠会入職。2013年より重症児
者・福祉医療施設「ソレイユ川崎」キャ
バパス長、現在に至る。

異なり、福祉の機能も兼ね備えており、
入所者・通所者に病気の治療と併せて福
祉的な支援も実施しているのが特徴でも
あり、運営の難しいところでもあります」
同施設では現在、事務職員として常勤
事務員4名、パート職員3名、診療報酬
請求専門の担当者1名の計8名が勤務し
ている。

■電子カルテシステム導入
医師も看護師も望んでいた導入
機能・価格ともに合致したシステム

2013年に「ソレ

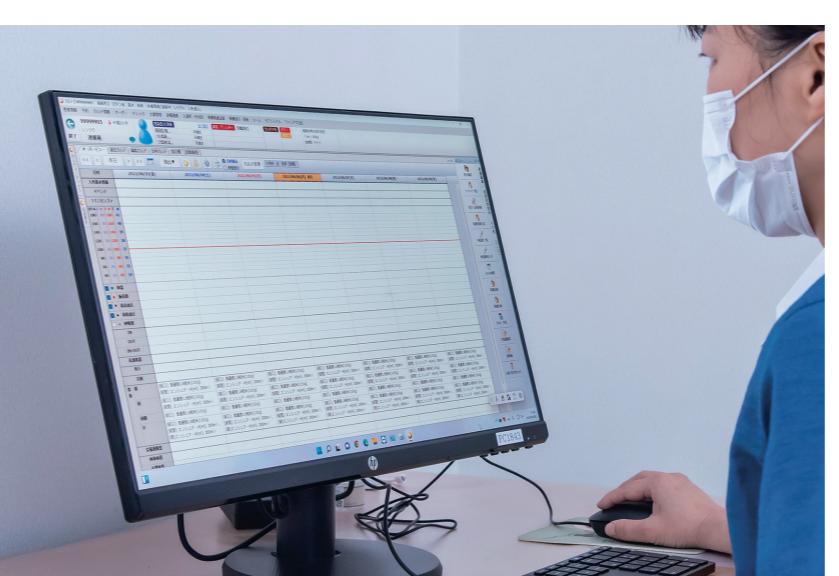
前出のとおり、社会福祉法人三篠会は、
2018年から同法人の重症児者・福祉
医療施設にパシフィックメディカル製の
電子カルテシステム「MALL」を次々
に導入、稼働を開始しているが、「ソレイ
ユ川崎」は、その第1号の施設である。
同施設の事務部門を統括するキャバパス
長の武田義博氏は、「ソレイユ川崎」の概
要を、つぎのように話す。

「2005年、川崎市初の重症児者・福祉
医療施設としてオーブンした『ソレイユ
川崎』は、入所者が100名、ショート
ステイなど短期入所者が1日約5名、デ
イサービス等の通園事業は1日約20名を
受け入れています」

当施設に入所している重症心身障害児
者で18歳以下の方は、2割以下に過ぎま
せん。重症児者・福祉医療施設は病院と

「ソレイユ川崎」に異動した
武田氏は、スタッフの
職種の多さに驚き、情
報共有のための電子カ
ルテの必要性を強く認
識したと話す。

「重症児者・福祉医療
施設では、医師や看護
師、事務職員だけでな
く、薬剤師や栄養士、
介護職員など様々な職
種のスタッフが働いて
いますが、現場では紙
カルテが使用されてお
り、情報共有が困難な
状況でした。また、事
務職員の重要な業務で
ある診療報酬請求も、
紙カルテから直接入力



電子カルテシステム「MALL」を操作する看護部 部長の高木由美氏。医療だけでなく
福祉に関する機能も充実しており、重症児者・福祉医療施設の運営に貢献している。

しており、その非効率性に驚きました。
特に、診療報酬請求専門職員のスタッフ
が入院していた時期には、私も請求業務
を直接担当することになり、苦労しまし
た。そこで、電子カルテシステム化を法
人に進言し、2018年8月に電子カル
テシステム「MALL」が導入されたこ
とになったのです」

電子カルテシステム導入に対しスタッ
フの抵抗感は少なかつたと武田氏は話す。
「医師は電子カルテ導入を熱望していま
たし、看護師も若いスタッフが多くた
こともあり、電子カルテシステム導入は
スムーズに進みました」

2017年9月に電子カルテシステム
導入されました。

2017年9月に電子カルテシステム
導入されました。

導入の方針が決定し、翌2018年8月
に稼働を開始しました。スタッフへのレ
クチャは約半年ほどで、稼働当初こそ
慣れていないこと也有って苦労しました
が、今では大きなトラブルもなく順調に
稼働しています」

武田氏は、「MALL」の有用性につい
てつぎのように話す。

「パッケージ販売されている電子カルテシ
ステムは多いですが、価格にも大きな幅
があります。その中で「MALL」は、
当施設のような中小規模でもリーズナブル
な価格で導入することができましたし、
福祉に関する機能が充実しているのが
良いですね。パシフィックメディカルには、
バージョンアップする度に、福祉に関す
る機能を拡充してもらつており、たいへん
感謝しています」

さらに、武田氏は電子カルテシステム
導入の成果をつぎのように話す。

「医事関係の業務がとても楽になりました。
医師や看護師らが入力した診療データ
を診療報酬請求用に整理してレセコン
に送信するだけで、請求業務が効率化さ
れています。また、電子カルテシステム
の端末さえあれば、どこにいても入所者の
情報を把握できるので、入所者の家族
から入所者の現況の問い合わせがあつた
際、スムーズにかつ正確な情報を伝
えることができる点も大変助かっています。
まだ、細かな要望等はありますが、
電子カルテシステム導入により、当初求
めていた業務の効率化は概ね達成できた
と感じています」

高度な医療的ケア提供も必要な施設での特別な電子カルテ運用 医療・福祉・介護が融合する施設独自のカスタマイズを実現

社会福祉法人三篠会
重症児者・福祉医療施設 ソレイユ川崎
看護部長

高木由美 氏に聞く



高木由美 (たかぎ・ゆみ) 氏
1995年生後看護学院卒。大阪回生病院
を経て、2006年社会福祉法人三篠会入
職、重症児・者福祉医療施設「ソレイユ
川崎」勤務。2016年より看護部長、現
在に至る。

また、ご家族の方に入所者さんの様子
を伝えるのも重要な仕事です。昨今はコ
ロナ禍のため、面会を制限する必要があつ
たことから、ご家族と入所者さんは、
より細かなケアが必要な状況です」

■電子カルテシステムの構築
特有の福祉関係の機能を充実させ
多職種間の情報連携を実現

「タブレット端末を操作する高木氏。ベッドサイドでの入力やカメラ機能を用いた運用など、
迅速な運用だけでなく、医療安全でも貢献していると高木氏は評価している。

「看護師には高度な医療的ケアを提供する
通所者の看護業務に取り組んでいます。
当施設の入所者数は4歳から78歳までの
100名ですが、人工呼吸器を装着して
いる人所者は10名以上、経管栄養や気管
切開実施者を合わせると40名以上おり、
ちょっとした表情や身体的な様子の変化
に、私たちが如何に気づくことができる
かが重要です。

タブレット端末を操作する高木氏。ベッドサイドでの入力やカメラ機能を用いた運用など、
迅速な運用だけでなく、医療安全でも貢献していると高木氏は評価している。

理・運用する必要があります。そこで、
これら的新項目を洗い出し、「MALL」
に追加しました。これらの項目は、従来
Excel帳票といつて表計算ソフトのExcel
を用いて運用していましたが、「MALL」
導入に際し、そのExcel帳票を「MALL」
に移植しました。Excel帳票には、福祉
ならではのフェイストートや個別支援計
画の作成なども含みますが、これらも「M
ALL」に取り込んだことで、紙ベース
の運用から電子化に移行することに成功
し、満足しています。当然、「MALL」
導入による電子化で、各職種のスタッフ
間での情報共有が容易になつたことは、
入所者並びにスタッフにとって大きなメ
リットであると実感しています」

カスタマイズ化では苦労したが、パシ
フィックメディカルの協力もあり、良いシ
ステムが構築できただと感じています」

高木氏は、タブレット端末によるシ
ステム運用についても、高く評価している。
「当施設には約10台のタブレット端末が導
入されていますが、ベッドサイドで体温
や脈拍やサチュレーションを測定し簡便
に記録できます。また、入所者の傷の具
合などをタブレット端末で撮影して、そ
のまま「MALL」画面に貼り込み、他

「看護師には60名が勤務しており、入所者や
通所者の看護業務に取り組んでいます。
当施設の入所者数は4歳から78歳までの
100名ですが、人工呼吸器を装着して
いる人所者は10名以上、経管栄養や気管
切開実施者を合わせると40名以上おり、
ちょっとした表情や身体的な様子の変化
に、私たちが如何に気づくことができる
かが重要です。

タブレット端末を操作する高木氏。ベッドサイドでの入力やカメラ機能を用いた運用など、
迅速な運用だけでなく、医療安全でも貢献していると高木氏は評価している。

理・運用する必要があります。そこで、
これら新項目を洗い出し、「MALL」
に追加しました。これらの項目は、従来
Excel帳票といつて表計算ソフトのExcel
を用いて運用していましたが、「MALL」
導入に際し、そのExcel帳票を「MALL」
に移植しました。Excel帳票には、福祉
ならではのフェイストートや個別支援計
画の作成なども含みますが、これらも「M
ALL」に取り込んだことで、紙ベース
の運用から電子化に移行することに成功
し、満足しています。当然、「MALL」
導入による電子化で、各職種のスタッフ
間での情報共有が容易になつたことは、
入所者並びにスタッフにとって大きなメ
リットであると実感しています」

カスタマイズ化では苦労したが、パシ
フィックメディカルの協力もあり、良いシ
ステムが構築できただと感じています」

高木氏は、タブレット端末によるシ
ステム運用についても、高く評価している。
「当施設には約10台のタブレット端末が導
入されていますが、ベッドサイドで体温
や脈拍やサチュレーションを測定し簡便
に記録できます。また、入所者の傷の具
合などをタブレット端末で撮影して、そ
のまま「MALL」画面に貼り込み、他



重症児者・福祉医療施設 「ソレイユ川崎」

住所：神奈川県川崎市麻生区細山1203番地
重症児・者福祉医療施設 施設長：江川文誠
入所定員：100名